

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
<p>住み続けたい 緑豊かで人情味あふれる西里校区</p>	<p>誰もが安心して生活できる優しい町</p>	高齢者	<p>①高齢者の孤立防止と社会参加 ②認知症高齢者について ③高齢者の体力維持と健康問題 ④免許返納後の移動手段</p>	<p>①閉じこもりがちな高齢者に対する対応 ②サロン（校区内14か所）の内容及び参加者のマンネリ化 ③認知症に対する理解不足 ④病院・買い物・サロン・ゴミ出し等に車・バス等ないと不便</p>	<p>①地域行事・サロン等へ参加の呼びかけ ②魅力あるサロンの体制と楽しいプログラム作り ③地域で認知症及びその対応方法の勉強会をする ④住民主体の買い物支援・移動支援等の情報収集</p>	<p>①熊本保健科学大学との連携したイベントの開催 ②行事・サロンの情報共有と周知 ③サロン交流会とサポーターの確立 ④命のバトンを活用した見守りの実施 ⑤地域支え合い型サービスの勉強会の開催 （所轄：市高齢福祉課 窓口：ささえりあ） ⑥認知症サポーター養成講座、声かけ模擬訓練の開催 ⑦福祉協力隊への参加呼びかけ、活動推進を図る</p>
		障がい児・者	<p>①障がい児・者への正しい理解（対応方法） ②障がい児・者への日頃からの声かけや見守り</p>	<p>①障がい児・者の方との接点・交流の機会が少ない ②声のかけ方や接し方、対応方法が分からない ③障がい児・者、家族の孤立化が心配</p>	<p>①勉強会を開催し、理解を深め意識向上を図る ②障がい者施設との交流を図る ③地域での日頃よりの挨拶・声かけ</p>	<p>①障がい児・者に対する正しい理解を深めるための研修の開催  ②はなその学苑の行事参加と交流促進を図る ③障がい者相談支援センターとの連携</p>
	<p>安心して気兼ねなくゆったりと子育てできる町</p>	子ども・子育て	<p>①登下校時における児童の見守りと安全確認 ②いじめの早期発見と早期対応</p>	<p>①登下校の見守りに対して町内ごとに差が生じている ②個人情報保護が重視され、情報共有がしづらい</p>	<p>①PTA・学校とさらなる連携を図る ②子育て世帯の情報把握 ③見守りの拡充 ④「こどもひなんの家」の見直し</p>	<p>①PTA・学校との意見交換を実施 ②見守り隊の参加呼びかけ・活動推進を図る ③各種団体と連携し、「ひなんの家」の周知を図る （ウォークラリーとの合同企画等）</p>
			<p>①子育て世帯の情報把握 ②地域における世代間交流（就学前の子どもと親の居場所づくり）</p>	<p>①子育て世帯の情報把握が難しい（特に賃貸物件の場合） ②サークル活動の活動が減少している。</p>	<p>①赤ちゃん訪問等の情報を活用する ②サークル活動。LINE等で周知と登録を呼びかける</p>	<p>①世代間交流が出来る場所の確保、提供（協議） ②行政や各種団体と連携し、子育て世帯が利用しやすい公共施設（公民館・コミセン等）の整備 ③熊本市のLINEの活用による子育て世帯への情報発信</p>
	<p>日頃の備えと地域との連携</p>	<p>災害・防災</p>	<p>①避難所の周知と避難経路の確認 ②要援護者の避難支援と安否確認</p>	<p>①災害・防災に対する意識の希薄化 ②災害の種類・規模による避難行動が不明確である ③要援護者の情報把握、情報共有の仕組みづくりできていない ④危険個所の把握が十分にできていない</p>	<p>①自治協議会・民児協・消防団等、団体との連携し、個人・地域の意識の向上を図る ②防災訓練・避難訓練等の計画 ③危険個所を実際に歩いて確認をする</p>	<p>①避難行動要支援者制度に係る登録者の情報更新を行う ②地域防災巡りの実施（地域の避難所、危険個所を廻る） ③要援護者を想定した避難訓練等の実施</p>
			その他	<p>①地域役員の担い手不足 ②地域団体間における連携</p>	<p>①町内行事など地域により差が生じている ②高齢化が進み役員の成り手がおらず、負担が増えている ③団体役員の発掘・育成が難しい ④地域の役員が輪番制である</p>	<p>①自治会加入のわかりやすい広報・啓発 ②地域への関心を持つような取組み ③地域の行事等の整理を進め、地域役員の負担の軽減を図る ④退職者の把握と地域活動への勧誘</p>